

## 「手紙で導く牧会者ジョン・ウェスリ」

岩本 助成

### (1) ジョン・ウェスリ（以下、JW と略記）の『手紙集』

JW は説教集(151 篇)、多分野にわたる論集、日記、日記メモなどに加えて、浩瀚な手紙を遺した。『手紙集』は 88 年前の Telford 版(8 巻)に代わる BE 版(20 年の準備期間、1975 年以降)は、第 25 巻(1721. 11. 3 の手紙から。編者 F. Baker の 140 頁から成る優れた概説を含む)から第 27 巻までが**既刊(1765 年まで)**。第 28 巻～第 31 巻(1791.2.24、ウィルバークフォース議員への手紙まで)の編集の進捗と出版とが待たれる(編集者の一人、Ted A. Campbell 南メソジスト大学教授の情報提供に謝意を表したい)。

JW が 70 年間に書いた手紙数は約 18000 通と推定される。「書簡文学」としても優れた質量。概算すると、月に 20 通、年に 250 通のペースか。Telford 版は 2670 通。BE 版では 3500 通を読むことができる。手紙の数と執筆時期を比べると、20 歳台で約 30 通であったのに比べ、60 歳から 70 歳までで約 500 通、70 歳台で約 1000 通、さらに 80 歳台では約 1300 通と伸びている。メールに近い実務的な手紙もあり、神学的・教理的で論争的な手紙も多いが、この発表では、**牧会者としての一人の女性への手紙**に注目する。

大会衆への伝道者、説教者であった JW は、同時に、ひとり、ひとりの「恵みから恵みへの信仰の成長、成熟したキリスト者への導き、魂への配慮」に励んだ牧会者でもあった。諸教派にわたるメソジスト協会のクラス、バンド、ソサエティの交わりへと人々を導き、メソジスト会員をして「**孤立ではなく、聖徒の交わり**」において、「**an optimism of grace**、恵みの成熟、積

極的な使命の自覚と実践、恵みへの応答、希望と期待」に歩ませる「**靈的な同伴者、ガイドの役割**」を果たした。JW に比べて自分の伝道を「砂のロープ」と嘆いた Whitefield ではあったが、彼もまた、牧会者 JW を見抜く慧眼を有していた。

## (2) JW とアン・ボルトン (Ann Bolton, 1743~1822、以下、AB と略記) との文通

「手紙で導く牧会者 JW」の一好例として、円熟期の 29 年間をかけての JW から AB への手紙(約 130 通か。93 通の自筆書簡が現存。その数は、弟チャールズへの 113 通に次ぐ自筆の手紙)を取り上げる。(なお、AB から JW への手紙は焼失したが、写しが残っていた)。理由は四つ。①AB はパン職人の娘。JW が敬愛して止まなかった「貧しさを知る一般市民」のひとり。②国教会信徒を中核にしつつも諸教派にわたるメソジスト会活動(1791年、会員数約 7 万人)に献身的に奉仕した**信徒**。③第 18 世紀社会における**女性の活発な奉仕活動に生きた一人**。④JW の生涯を「時期で区分すること」は難しいが、少なくとも「**円熟期の JW の牧会と神学**」をこの文通から知り得ることが、この文通を取り上げた理由である。

JW は円熟期に、他派との論争や自派の完全主義たちとの戦いなどを通し、また、実際の牧会経験を積み重ねつつ、信仰生活の成長の困難さを知り抜くことになる。それは、また、さらに深く「**謙虚で、柔和な、忍耐強い愛**」を、主と隣人とに対して養い育てられる「**自分の救いの達成**」へとつながって行った。

AB はオックスフォードシャーのウィットニー在住。19 歳で回心経験。後にメソジスト運動に加わり、JW の指導のもと、クラス・リーダーとして奉仕に励む。靈的な日記を残す。結婚は 20 代。JW が与えた愛称はなぜか Nancy。出会いは 20 歳。文通は 25 歳の時に始めた。当時、65 歳であった JW は、彼女の靈的な資質と文学的な素養を見抜き、**信仰において生み出した「靈的なわが娘」**のように愛した。病弱であった AB のため、靈的な指導と共に健康上の助言を与え続けた。彼はたびたび、彼女と弟エドワード

(農夫、メソジスト信徒伝道者になる。愛称は Neddy) の許を訪れた。AB は JW 帰天の報に接してロンドンに急ぎ、遺体を前に祈りの一夜を過ごす。遺言で 100 ポンドが遺されていた。葬儀の感想を書き残し、JW の死後、*Arminian Magazine* に 24 通を公開した。

(3) この牧会的な手紙を「聖化、苦難(試練)、奉仕活動」(Tracy)の 3 点から考える。

(i) AB への手紙は「聖化、きよめ、全き愛、キリスト者の完全」を中心主題とする手紙。そこが特色。手紙の目的は明瞭である。最初の手紙(資料 1)で「すべての事柄のうち、最善でもっとも望ましいことは、あなたが、全く神さまにささげられた者として生き、そして死ぬことです。・・・あなたの体と霊とが、聖なる者とされる一事を学ぶこと。愛の全焼のいけにえとされることを学ぶことです。」と述べている。2 か月後、「主はすでに、しもべとしての信仰を与えて下さっていますので、子としての信仰を求めるだけです。・・・わたしの姉妹よ、友よ、上を仰ぎなさい。イエス様はそこにおられます。主の愛を疑ってはなりません。あなた自身を忘れ去りなさい。・・・しかし、イエス様を仰ぎなさい。罪人の友となられた御方を見つめなさい。あなたの友です。身近におられる強い救い主です。」と信仰の励ましを与える。

AB からの返事は「わたしはホーリネスからほど遠いところにいます。」であった。JW の答えは「離れていると言われますが、あなたはホーリネスからどれほど離れているというのですか。いいえ、むしろ、ホーリネスにどれほど近いかを考えて下さい。あなたが信仰に立つ限り、キリスト様を信じる限り、きよめから決して離れてはいません。・・・主はあなたの側近くにおられるではありませんか。あなたの心の扉を今、叩いておられるではありませんか。聴くのです。あなたの主があなたを呼んでおられます。」(以下、引用文のゴシック体は発表者による。)

2 年後、「今なお、神さまの子どもではなく、しもべの状態であったとしても、しもべとされたことさえ、祝福に満ちたことです。」と励ます(資料

5)、『キリスト者の完全』を読むことを勧め、現在の靈的な苦悩は、聖化の成長段階であり、「残り滓」を取り除くための主の御業と論じ、彼女を「神の子」と見る眼差しを失わない。1772年2月、ABは聖化の恵みに入れられたと証しするが、逆に、JWは自己否定に深入りしないように注意し、自己を献げることと自己を空しくすることとは違うとして、自己滅却に入り込んではいならないと警告する(資料6)。JWは、「神さまの全き像への救い」をABに説き聞かせ、キリスト者の完全が「継続的な成長の余地を残していること」を示し、「全き愛の成長、perfecting perfection」へ導こうとする。最大の祝福は「純粋で、しみのない心におけるキリスト様。・・・

完全とは、神さまと人に対する、全身全霊、全生涯にわたる、謙虚で、柔和な、忍耐強い愛」と結ぶ。JWがABと「共に与かろうとした、きよめ、キリスト者の完全、静止的ではない愛の神学と実践のダイナミズム」と言えようか。

(ii) AB への手紙は、身心、試練、経済的な困難と戦う AB 自身に寄り添う手紙であった。多忙な JW ではあったが、時間と通信費(当時の郵便事情を考えること)を惜しまずに手紙を書き続け、彼女の一身上の諸問題を受け止め、「苦難が何のためのものか」を教え続ける。①苦難を通して主の御苦難に与かり得る。②「主の御心を行うことと、御心に従うゆえに苦しむこと」の両面を説く。③苦しみへの招きは主の御心。「雲が遮ったとしても、あなたの上に翻っている主の御旗は、愛」と励ます。④身体が弱い AB に『応急治療法 (Primitive Physics)』を教える。「主イエス様はあなたのもの。・・・あなたの魂を主の足元に投げ出しなさい。」⑤AB の苦悩の訴えを読みつつ、85歳の JW は、「あなたが苦しみの娘であるゆえに、より一層、主にあるあなたへの愛に生かされます。あなたが神様の学校にいます。」と綴る。⑥主の御手のわざを見誤る危険性を伝え、「弱さ、愚かさ・・・人の罪からさえ、益を抽出してくださる御方が神さまです。」⑦「主がすべての滓を取り除いてくださいます。あなたが主人の役に立つのにふさわしい器とされるために。」と書き、試練の炉が純金を生み出すと励ます。「苦難はあなたへの神さまからの贈り物。・・・今は、喜びの時ではなく、

悲しみの時です。にも拘わらず、この時こそが平安の実を結びつつあるのです。あなたの魂は潤った流れのほとりの園、主に祝福された畑のようです。」と書いた。死（1791. 3. 2.）の3週間前に AB に書き送った最後の手紙。自分が逝く時を自覚しながらも、AB の健康快復を喜び、「もっとも厳しい苦しみは、今や、過ぎ去りました。あなたの喜びがやって来ます。愛する友よ、仰ぎなさい。仰ぐのです。あなたの前に置かれている栄冠を待ち望むのです。」聖化とは栄化を待ち望むことにほかならない。そして「あなたの友をすべて主に委ねなさい。そうすれば、主がそれらの友を、また、あなたに与えてくださいますから。」「欲しい本は何でも送りますから」という迫伸が AB への最後の言葉となった。

(iii) JW は、AB を「**聖徒の交わりとグループでの奉仕活動**」に導いた**牧会者**。AB は聡明で文章力に優れ、控え目で霊的な自覚に富み、穏やかに話す人物であった。生来の指導力を見抜いていた JW は、クラスやバンドにおいて熱心に活動することを勧め、実際、彼女は諸グループの指導者となった。自分の町に奉仕を限定しようとする彼女に対して、巡回奉仕を勧めた。「時を取り戻し、あらゆる機会を買い取ってください。失望してはなりません。たとえ、多くの花が落ちて実を結ばないことがあっても。」と書く。AB は、特定の人々の信仰告白やきよめのためにも遣わされた。その場合にも、JW は個別の指導を教え、「彼女の場合は、慰めを必要としているのですから、決して叱責してはなりません。」と指導する。AB が属する国教会教区司祭に対して AB を「あなたの園の中で、彼女のような花はほかにありません」と激賞している。

(4) **結びに代えて** 新約聖書の使徒たちの手紙を挙げるまでもないが、邦訳のアウグスティヌス『書簡集』2巻や改革者たちの手紙（ルターの邦訳本では『ルターの慰めと励ましの手紙』タッパード編、内海望訳、カルヴァンに関しては『牧会者カルヴァン』マッキー編、出村彰訳など）を通して霊的な真理を学び得る。JW の手紙の場合も同様であり、しかも、JW の手紙の宝庫は、未知の部分が多いのである。JW のような「なかなか、既定枠にはまり切らない人物」の場合、虚像部分を少しでも実像に近づけていく

ためにも、第 1 次資料によって、彼の手紙などを地道に検討していくことが大切だと思う。

最近、デビューク大学 Elmer M. Colyer 教授による JW の三位一体論に関する著書を読んで啓発を受けている。教授は ” 教授は、三一論にその根底をおく参加型の (participatory) 恵みへの参与という理解と生き方を強調している。JW は「自分も相手と共に、an optimism of grace を生きたいと願った牧会者のひとり、神学者のひとり」。教会人として主の恵みに成長するとは。福音信仰を神学し、共に福音信仰に生き続けるとはどういうことか。十字架と復活の主イエス・キリストの聖愛に生きるとは、どういうことかを、このひとりの優れた牧会者を通して学びたいと願っている。

(単立西田辺教会・牧師)

(参考文献)

*The Letters of the Rev. John Wesley, A.M.* (ed. John Telford) Vols.5~8, Epworth, 1931

*Letters of John Wesley*, George Eayrs (ed.), Hodder & Stoughton, 1915. 山口徳夫訳、『J. ウェスレイ手紙集』、伝道社、1975 年。

*Selected Letters of John Wesley*, Frederick C. Gill (ed.), Philosophical Library, 1956.

*John Wesley*, (ed.), A. C. Outler, Oxford Univ. Press, 1964.

John Banks, *'Nancy Nancy'*, Penwork, 1984.

Vicki Tolar Burton, *Spiritual Literacy in John Wesley's Methodism: Reading, Writing, and Speaking to Believe*, Baylor Univ. Press, 2008.

David B. McEwan, *Wesley as a Pastoral Theologian*, Paternoster, 2011.

Ted A. Campbell, "John Wesley's Intimate Disconnections, 1755 – 1764", *Methodist History* 51:3, (April 2013) pp. 185—200.

Bruce Hindmarsh, “Spiritual Experience and Early Evangelical Correspondence: The Letters of John Wesley and Ann Bolton, 1768—91”, *Huntington Library Quarterly*, Vol. 79, No.3. pp. 455—478.

Ho Peng Khoo, “Free Grace Versus Free Will: Wesley’s Understanding of Humanity and His Practice of Pastoral Guidance”, *Rethinking Mission*, Jan.2010, pp. 1—39.

Page A. Thomas, “John Wesley: Spiritual Advisor to Young Women As He Speaks Through His Letters”, *Center for Methodist Studies, Bridwell Library, Perkins School of Theology, SMU*, 2007, pp. 1—27.

Wesley D. Tracy, "John Wesley, Spiritual Director: Spiritual Guidance in Wesley’s Letters”, *Wesleyan Theological Journal*, Vol.23, No. 1, 1988, pp. 148—162.

(資料1)

1768年2月13日

ロンドンにて

愛する姉妹、すべての事柄のうち、最善でもっとも望ましいことは、あなたが生きるにも

死ぬにも、神さまにまったく献げられた者であること、ほかのことに気を散らさないで、神さまに誠心誠意、お仕えすること、霊肉共に聖とされ、愛の全焼のささげものとされるという「一事」を努めること、です。

もし、あなたがこのことのための確信と決意を持たないのならば、次善の道は、気立てがよく、理解力に優れた「信仰と愛の人」と結ばれることです。

現在、あなたに与えられている試練は、恐らくあなたの人生でこれまで経験したことがないような最も危険な試練でしょう。(しかし)、神さまはあなたを滅びから、必ず、救い出してください。その滅びとは、主を信じない者に負わされている滅びだからです。

わたしがロンドンを離れる日、つまり、3月7日までに当地まで来てくだされば、あなたが神さまを信じて生きている方々と語り合う時を与えられ、ことばには言い尽くせない助けを与えられると信じています。愛の神さま

が、その御翼をもってあなたの頭（こうべ）を覆い、すべての悪から守ってくださいますように。親愛なる姉妹へ、溢れる愛情を込めて、あなたの兄弟より。

(資料 2)

1768年5月9日

[発信地なし、エディンバラへの途次。]

愛する姉妹、あなたはホーリネスからどれほど離れているというのですか。いいえ、むしろ、ホーリネスにどれほど近いかを考えてください。あなたが信仰から、キリスト様から離れている以上には、ホーリネスから決して離れてはいません。一体、キリスト様からあなたがどれほど離れているというのですか。主は身近に臨在しておられるではありませんか。主はあなたの心の扉を、ちょうど今、叩いてくださっていませんか。お聞きなさい。あなたの主があなたを呼んでおられるのです。「なんじ、死せる魂よ。御子の御声を聞き、生きよ！」主はあなたに何をおっしゃっていますか。ナンシー、元気を出してください。あなたの罪は赦されています。愛するナンシーへ、豊かな愛情を込めて、あなたの兄弟より。

(資料 3)

1769年2月4日

ロンドンにて

愛する姉妹、ホイトニー訪問がなかなか出来ないのは、決して故意ではないことをしっかりと考えてください。時間が取れないのです。3月6日(月曜日)に、翌日の夕方、バースで説教をするためにロンドンを出発することにしています。その週の残りの日々は、プリストルのいくつかのクラスを訪問する予定であり、翌週の月曜日にはアイルランドへ向けて出発するというような具合です。最短距離を取ったとしても、わたしの仕事を成し遂げる

ためには時間が足りません。あなたのことを考えていましたので、言おうと考えていたことは以上で言ってしまいました。

わたしはロンドン来訪の際のあなたの振る舞いを賞賛せざるを得ません。



とても愛情豊

かで、慎重な振る舞いでした。わたしたちが今年の終わりでまで生かされていたら、今度は、もう少し長く一緒に時を過ごすことが出来れば、と思っています。それは傷つきを与えない

どころか、とても役に立つ出会いになると思います。しかし、その間、どうか健康に留意してください。風邪を引くことは、特に、この冬の季節は、あなたには危険です。出来る限り、乗馬に励んでください。ふすまスープを飲んでください。そして、わたしが時に応じてあなたに与えた助言を守ってください。わたしは、福音の前進のために説教をする適当な場所を見つけ得るようにと願っています。主の祝福が多くの人々のために、特に、あなたのために備えられますように！

思い切って信じなさい、と申しましょう。信じなさい。そして、主を身近に覚えなさい。手を差し伸べて主に触れまつりなさい。主はあなたの戸口に立っていてくださらないでしょうか。忘れないでください。愛するナンシーへ、愛情深い兄弟より。 追伸 わたしに何か送ろうなどとは考えないでください。あなたの愛情は十分ですから。

(資料 4)

1770年1月25日

ルイシャムにて

ナンシー、ナンシー！もう少しで、あなたに怒りを発するところだったのですよ。事はそれほど容易くはありません。お返事がないのが不思議でならなかったのです。あなたの愛情が冷えて来たのではないかと考えました。わたしが返事をもらうまでに、6週間も間を空けないでください。あなたがわたしをイライラさせて、何か小言を言うてくるに違いないと思っているのかも知れませんか。

本のことではびっくりしました。フランクスさんに二度も催促し、彼は、「二度、本を送ったのに、・・・」と答えました。きっと、彼はほかの本の間に、あなたの本を紛れ込ませてしまったのでしょう。しかし、この問題はうまく行く筈です。

健康が許すかぎり、乗馬を止めてはいけません。あなたの場合、運動と外気に触れることほど、良いものではありません。わたしがロンドンに来てほしかったのは、ほかの理由もありますが、あなたが運動と外気に接するためでした。あなたの「感情を害する」反対理由があつて、あなたをそれらから遠ざける必要があるのかどうかは、わたしには分かりませんが・・・。

わたしがロンドンを離れる一週間前に訪ねてくださるくらいの余裕をもって来てください。しばらくはお目にかかれなくても知れません。どんな試練にも必ず、のがれる道が備えられています。一か月も返事をしないようなことがないように。愛するナンシー、豊かな愛情を込めて、あなたの兄弟より。

追伸 今、あなたがお泊まりになれるところは、一部屋か二部屋かはありますよ。

(資料 5)

1770年11月16日

ロンドンにて

愛する姉妹、あなたからのお手紙の上書きを見ただけで、いつも喜びが与えられます。あ

なたが神さまの御国をつねに待ち望んでいることが、うれしくなりました。ただ、「子と

して」よりも、「しもべ」の状態に止まっているとは思いますが・・・。しかし、神さまのしもべであることも、何と祝福されたことでしょうか！(神さまのしもべであること)への主の奉仕の御業を恥じてはいけません。特に、助言したいことは、あなたが個人的な義務を省いてはならないということです。たとえ、どんなに急いでいる時にも、魂に潤いを失い、だるく感じるような時でも、それらの任務は祝福となるに違いありません。そして、個人的な義務を全うすることによって、あなたの優しい心にとって、もっとも危険な試練への勝利を与えられます。

この日曜日に、タバナクル・トッテンハイム、コートチャペルにおいて、かの祝福されたホイットフィールド牧師の葬儀説教を行うことになって

手紙で導く牧会者ジョン・ウェスリ

います。もし、それが助けになり、慰めになるのであれば、どうかたびたび、お便りをください。愛するナンシーへ、あふれる愛を込めた兄弟より。

(資料 6)

1770年 12月15日

セブンノクスにて

愛する姉妹、あなたが自分自身について、多くのことを考え続け過ぎることは、確かに危険なことです。しかし、もう一つの危険があります。それは、あなたが多くのことに直ぐに影響を受け過ぎることです。その多くの影響の結果、与えられた神様の恵みについては、僅かしか考えないようになります。自分が主の恵みを受けるのに、ふさわしい状況にあるかどうかを考え込むことには、即座に抵抗しなさい。

あなたがその体で、その手足でしっかりと捉えるように、主の自由で全能的な恵みを、しっかりと受け取りなさい。恵みに恵みを加えてくださる主の満ち足りる恵みに、期待しなさい。(わたしの) 説教「救いへの聖書的な道」や「信仰者の悔い改め」を、祈り深く読み返すことが、とても役立つと思います。それらの説教は、あなたが、今、どこに立っているかを示してくれます。ある意味で、信仰こそ、あなたが求めていることのすべてです。もし、あなたが信じ得るならば、主を信じることによって、すべてが可能になるではありませんか。今日、その恵みを受けなくてもよいのでしょうか。いや、この時間に、この瞬間に、(受けなくてもよいのでしょうか。) あなたを深く愛する兄弟より。

(資料 7)

1772年 3月25日

コングルトンにて

愛する姉妹、あなたが、「[自分に]空しくあること (emptiness)」に関して話された内容を考えれば考えるほど、すばらしい Betsy Johnson 姉妹 [Miss Johnson については、『手紙集』第4巻 225頁に記されている 1763年 12月15日付けの手紙と解説を参照]がローマ・カトリック派に属する「神秘主義的な著作家」と呼ばれる数人と出会ったことについて考え

ざるを得ません。これらの人々は、ひっきりなしに、「自分を空しくすること (self-emptiness, self-inanition, self-annihilation)」について語るのですが、それらの言葉は、良識ある人が

用いる「自己矛盾 self-contradiction」に近い言葉だと考えます。実際、人は、自分から誇

りを隠すことについて、過剰に配慮はできないと認めるものです。わたしは、何度となく、あなたがそのようなことの中に陥って行きはしないかと案じていますし、わたしが、わたしの流儀であなたに自分の考えを話している内に、あなたをそのような考えに導いてしまったのではないかと案じています。

わたしのナンシー、このことがあなたを害さないでしょうか。わたしが「あなた」に接するように、あなたも、「わたし」に対してありのままであってください。たとえ、わたしたちが謙虚に満たされ得ないとしても、たとえ、愛なる神さまの御前において、わたしたち自身、謙虚であることが不可能であったとしても、これらの表現を用いることによって、推奨すべき人間性を[正しく]認めることが、わたしには出来ません。それらの表現に対するわたしの第一の反対理由は、それらが非聖書的であるということです。今や、あなたもわたしも、聖書第一主義者 (bigots to the Bible) ではありませんか。聖書の御言葉は、「そのようなものは、ほかになかった」と言われるゴリアトの剣のようなものだと思います。しかし、彼らの表現は、危険なものでもあります。知らずに神さまの賜物[恵みの手段の否定、軽視を指すか]を否定してしまうことへと導きかねないからです。いいえ、益のあるものであるかのように考えさせてしまうかも知れないからです。神さまが行われることを過小評価することによって、神さまをほめたたえていると思い込ませてしまうかも知れないのです。あなたは、そうなってはなりません。主に栄光を帰している限りは、主のすべての御業を認めなさい。さようなら。

(資料 8)

1773年1月 29日

ロンドンにて

愛する姉妹、御教えに従って、「悪事については幼子となり、考え方については大人になりなさい。」[コリント一、14:20]。私は行ないについても、言葉についても、どんな点においても、出来る限りの確かな方法を取りたいと願っています。特に、公けの場で、主の御言葉を語るときには、私たちはさらに進んだ御教えを受けているのです。「語る人は、神の言葉を語るにふさわしく語りなさい。」[ペトロ一、4:11]。さて、神さまの御言葉という場合、ふさわしくない表現は許されません。一つ、一つの言葉をもっとも適したものとして語る必要があります。ですから、公的であれ、私的であれ、私が語っている時、的確でない表現を用いていないかどうかを、あなたにしっかりと聞き取ってほしいのです。あるいは、私の文書においても（わたしは、たびたび、急いで書きますので）不適切さを見つけたら、どうかわたしにそのことを告げてください。そのことで、あなたがわたしを真実込めて愛してくださっていることを再確認させてほしいのです。[ジェームス 1 世の侍医]Hammond 博士は「私は、友人の伝染病ばかりでなく、イボの治療にも喜んで当たります。」と言われたそうです。

ですから、あなたにもそうしていただきたいのです。私もあなたの僅かな欠点にでも、あなたの気質、ことば、行ないで気づいた時には、喜んでそれらを取り去るために励みましょう。

あなたを私のように、あなたが愛するすべての方々のように、心くばりをいたします。これは、世的な知恵ではありません。天的な知恵です。Sammy Wells 君[助手]にも Neddy Bolton 君[AB の実弟]にも、『ヨハネの手紙一』の平明さ以上の難しい言葉を用いることを決して勧めはしません。しかし、彼らにもあなたにも、あらゆる方法を用いて理解力を深めることを勧めます。ある知識は、愛の導きに従って用いられるかぎり、神さまのすばらしい賜物なのです。あなたと、そのほかの友人たちの助けを感謝しています。出来るだけ早く、わたしの質問に答えてください。するべきことをしないままで、放っておくことがないように。愛するナンシー、あなたの最愛の者から。

(資料 9)

1773 年 7 月 18 日

ロンドンにて

愛する姉妹、あなたとのこの前の語らいは、とても楽しいものでした。それまでは、時々、互いの[主にある]愛情が冷めてしまったのではないかと考え勝ちでしたが、今では、そうでないと確信しています。あなたの愛は冷めていないと信じています。そのことで大いに満足していますが、あなたが世の事柄に煩わされているのを見るにつけ、心配でなりません。いつも煩いの中に閉ざされているのではない、とは思いますが・・・神さまの時こそ、最善のものです！（But God's time is best!）。こまごました二、三のことを記して見ます。

平安に満たされた思いで、あなたの駆せ場を走れ。あなたが神さまの御思いに沿って思う限り、神さまはあなたが望むこと以外を何もなさらず、あなたから望みもされない。

間髪入れずに悔い改めよ。悔い改めを引き延ばすな。「またの日に悔い改めよう」と思えば、また、その日の悔い改めが重なり、悔い改めが積もっていく。その日、その日の悔い改めこそ、一日の長さに見合うもの。

そのものだけで火をおこすハガネも、火打石もありはしない。摩擦し合うまでは、火はおこらないものだ。「信仰だけ」でも、「信仰なき行ない」も、正しくはない。これが打ち合うところにこそ、救いがおこされる。

もし、あなたに金が差し出されたら、あなたは「今日ではなく、明日、取りに行きます。」とは言わないだろう。救いが差し出されているというのに、なぜ、あなたは、冷ややかに「明日、取りに行く」という愚か者になろうとするのか。

手紙で導く牧会者ジョン・ウェスリ

祈りと感謝とは、活気に満ちた呼吸 人の霊を死から守るもの。祈りこそ、全宇宙に満ちるいのちを、活ける魂の中に導き入れるもの。感謝は、人のいのちなる神さまへの讃美を、新たに活気づけるもの。

[以下略]

(資料 10)

1787年9月18日

ブリストルにて

親愛なるナンシーへ

昨日、逆風のため、そこに長く閉じ込められていたオールダニー島、ジャージー島、ガーンジー島への小旅行から帰ってきて、8月24日付けのあなたの手紙を受け取ったところです。長い時をかけて、やっと、フランスからの帰りにガーンジー島に立ち寄った船が、わたしたちを乗せてくれ、ペンザンスの港に送り届けてくれました。その港で、わたしたちは死人の中からよみがえったように思い、どのようなところへ行こうとも、神さまが共にいてくださるのだと確信できました。それで、これからも、あなたと共にいることを強調したいのです。わたしのナンシー、仰ぎなさい。万軍の主は、近くにいてくださいます。主は救い出してくださいました。今も、救ってください、また、[これからも]救い出してください。主はあなたの益のために、あなたを長く鍛えてくださっていますが、それはあなたを主のきよさ（ホーリネス）に与かる者とするためです。主は、また、あなたの益のために鍛えてくださいますが、それはあなたが、ますます、きよくされ、その結果、ますます、幸いにされるためです。しかし、主の道は深い海の中にあり、主の足跡を見つけることは出来ません。[詩編 77 篇 20 節によるか。]

おそらく、1ヶ月後くらいに、あなたにウィットニーで会うことが出来るでしょう。わたしがそこへ行ったときには、あなたが出合ったすべての試練について、苦しみも喜びもともに、忘れないで話してください。わたしが、あなたにどんなに親愛の情を抱いているか、うまく言い表すことが出来ません。あなたは、わたしにとって、とても身近な人ですし、愛する存在です。しかし、わたしは、時々、わたしが、かつて、あなたを愛してきたようには、

手紙で導く牧会者ジョン・ウェスリ

あなたはわたしを愛していないのではないかと考えてしまいます。しかし、あなたが、少しは、わたしのことを思っていてくださると信じています。

さらに、愛と善行の促進に励み合いましょう。善き主は、あなたと共にいてくださり、あなたを、主御自身に、ますます、強く結びつけてくださいます。ですから、親愛なるナンシ

一、忘れないでください。 愛を込めて、さようなら。

(付記) この研究発表と付加資料は、2019年9月9日、関西学院ランバス記念礼拝堂を会場として開かれた日本ウェスレー・メソジスト学会第21回研究会で行なった研究発表のレジュメである。「当日の講演調のものを留めたい」との紀要編集委員のご要望に従い、敢えて大幅な修正加筆をしなかった。